

「週刊ポスト」と「女性セブン」の 販売協力金について

足掛け5年にわたって 打開策を模索

長年にわたり、書店は（株）小学館様の雑誌と書籍の販売を通じて相互の利益の増大を目指してきました。

近年、出版・書店業界が縮小し、町の書店は半減したと報道される中、日書連が2005年に実施した「経営実態調査」のアンケートにおきまして、粗利改善の声が書店の声として多く上りました。再販制度と現行流通制度の下では改善を見ることは針の穴に牛を通すように至難の事と思われて来ましたが、その中で、面屋龍延前理事長は30%マージン確保のため、足掛け5年にわたって出版社や取次への訪問活動を進めてきました。この過程で（株）小学館様にも大阪府書店商業組合でも打開策を模索してまいりました。

（株）小学館ハブリッキング・サービスク社社長佐藤隆哉様と面屋龍延前理事長との話し合いの結果、東京組合青年部との間で昨年取り交わされた「週刊ポスト」「女性セブン」の配達手数料を販売協力金として大阪でも当年限りの試験運用として実施することとなり、（株）小学館取締役 井出靖様と大阪府書店商業組合 面屋龍延 前理事長との間で単年の覚書を手交しました。

販売協力金は善意を 前提としたもの

この制度は、実売を確保するため配達や取置でご苦労されている町の本屋さんに報いるため、（株）小学館

と書店組合の間で善意を前提としたものです。各店の販売数に手数料を支払うものではないことをご理解下さい。つまり配達・取置の分についてはみ支払われません。店売り分まで含めると本来の趣旨に達する事となります。次年度への継続のためには真実の配達・取置数を申し込みの際に申告をして頂くようお願いいたします。支払いは期末のそれぞれの最終発行号の配達・取置数（定期数）をもって対象といたします。

前期は令和3年8月1日から令和4年1月末、後期は令和4年7月末として2回の清算によって、還元するものです。期首（8月1日現在）の定期・取置数を申告していただいて、お申し込みいたします。期末（1月最終版配本）の配達・取置数を年末発行予定の「組合だより」1001号に返信用報告書と後期申し込みを兼ねた文書を同封いたしますので、それをご返信下さい。取次において確認された数字と照し合せた上で（株）小学館様と確認した後、定期数と判断した冊数に本体価格の8%を掛け、定期発行回数と消費税率を乗数したものを配達手数料として（株）小学館様から大阪組合に振り込まれます。

還元方法は手数料分を減額して 組合費引落としの際に実施

大阪組合では（株）小学館様から振り込まれた金額のうち1%分を事務手数料として頂戴し、皆様には7%分を還元いたします。大阪組合は組合員様に配達手数料

の送金の際に送金手数料をご負担すること本意ではない事から、組合費引落としの際に配達・取置手数料分を減額して銀行引落としを実施いたします。その際に引落としができませんと引落手数料は引落とし機関へ組合の負担となります。引落しができない時は書店様への定期の配達・取置の販売協力金の還元はできません。組合費の再請求の場合でも、再度引落手数料が発生します。再請求の手数料が組合にとって過重負担となりますので、配達販売協力金の次期への繰越は組合事務の煩雑と金額負担からできないことをご理解下さいますようお願い致します。

申込方法と精算日について

別紙の申込用紙には、貴店番線印の押印を必ずお願い致します。お店によっては、複数帳合・番線のお店があるようです。基本は1帳合・1番線です。他帳合・他番線があまりしても作業が複雑となり、結果として他の組合員様でも影響することとなりかねず、協同組合としての本旨に逸脱することとなるからです。

組合の組合費の引落としが2月・5月・8月・11月の28日が基本です。前月分の清算時期の5月28日、後期分は11月28日です。そのときまでには銀行残高を確認して下さい。結果として、引落としができないときは配達手数料の還元ができない事となることをご理解下さい。

大阪読書推進会総会

帯コンは他に例がない ユニークな事業



宮川健郎会長

大阪読書推進会は総会を6月23日朝日新聞大阪本社12階アサコムホールにて開催、共催社の朝日新聞大阪本社、大阪出版協会、在阪取次、書店を合わせて17名が出席した。

司会を深田健治（ブックスふかだ）大阪組合副理事長が行い、大阪組合副理事長の戸和繁晴大阪読書推進会実行委員長（トワフックス）から「コロナ禍でも帯コン店頭陳列コンクールを実施しますので、ふるってご参加下さい。今年もイレギュラーな事が沢山起こるかと思いますが、皆様の協力をお願いしたい」と開会の挨拶をした。

大阪読書推進会の宮川健郎会長（大阪国際児童文学振興財団理事長）から「小峰書店に訪問した際、小峰社長からコロナ禍で児童書の売上は5%程の増加で、一般書の減少は少なかったが、旅行書は売れていないとの話でした。子どもの本をよく読み継がれている古典的な本が売れている。子ども本の購読の仕方が一般の本と違います。買うのは学校図書館などを含めて

大人で、読者の中心は子どもです。一般の本は読む人が買いますが、子どもの本は買う人と読む人が別で、顧客の二重性と呼ばれる問題です。大人が買うのは自分の子ども時代の読んだ本で、懐かしさを感じている本を次の世代に渡したがるのです。新刊の子ども本が中々子どもの手に渡らない。子ども本と云うのは、星の光が届くまで一世代遅れるように世紀を越えるのではないかと仮説を立てています。

帯コンは少し特別な位置にあって、大人が買った本を子どもが読んで帯を作るのですが、子どもの手で帯の制作を経て購読を薦めるという回り道をする独特の事業で、他に例がないユニークな事業です。大人が本を薦めることの良さや問題点を感じていて、薦める過程に子どもが入ってくる事が面白いと感じています」と挨拶した。

朝日新聞大阪本社塩谷裕一編集局長補佐から「昨春秋に着任しましたが、コロナ禍でイベントを中々出来ない状況ですが、朝日新聞としては紙面とデジタルで精一杯やって行きたい」と挨拶をした。

編集後記

『堺の諸店人』 暑中お見舞い申し上げます。緊急事態宣言のさなか、一年延期されていた東京オリンピック2020が開催されました。開催されたこととはとても嬉しいのですが、中学からずっと陸上競技が好きだった私にとっては、首都圏をはじめとする会場などで無観客となった事がとても残念でなりません。

「はらぺこあおむし」を毎日新聞さんが、良く内容を理解せず風刺画を掲載されたのですが、一応毎日新聞では配慮が足りなかったという事で決着が付いたようです。その中で、子どもの本が覗きされ、本は『心の糧』であると再認識されています」と挨拶をした。

一昨年の帯コン表彰式で私の母校の小学生が生き生きとした顔で賞状を受けている様子に接し、私にもあんな時代があったと思いつ返し、子どもたちに負けないようにしなければいけないと、非常に良い回春剤になっている。多分参加された皆さんもそう思うのではないかと挨拶をして締めくくった。



開催されたオリンピックだからこそ、出版業界が果たすべき大きな役割があるように思います。組合員の皆様はもうワクチンを接種されましたか？私は先月末に2回目を終え、少し安堵しています。まだ暫くは厳しい暑さが続きますが、コロナ禍の夏を上手く乗り切ってください。また体調にはくれぐれもお気を付けください。お願い申し上げます。